

年間第二十九主日：世界宣教の日（A年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

（一）聖書朗読：マタイ 28：16-20

十一人の弟子たちは、ガリラヤに行き、イエスが指示しておかれた山に登った。イエスは弟子に言われた。「天と地の一切の権能を授かっている。あなた方はすべての民を私の弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって、洗礼を授け、あなた方に命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなた方とともにいる」

（二）カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号、主に#849-850、857、860；他に830-831、836、1120-1122；YOUCAT #123、138-139）

神から諸国民のもとへ派遣された全教会は、救いの普遍的秘跡として、自分の創立者キリストの宣教命令に従いつつ、すべての人に福音を述べ伝えようと心掛けます。教会宣教の本源は、聖三位の永遠の愛です。教会は父なる神の計画による子の派遣と聖霊の派遣とにその起源を持っているので、宣教の目的は人々を愛の霊における父と子と交わりにあずからせることにあります。このときから、使徒達は終わることのない主の国の証人となりました。キリストが使徒達を派遣されたことは、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に福音を宣教し、述べ伝えられ、すべての民に洗礼を授けるためです。というのは、秘跡は神のことばとその言葉に同意する信仰とによって準備されるからです。

教会は普遍である意味は、正しく完全な信仰宣言、完全な秘跡生活、使徒継承による叙階奉仕職という救いの諸手段のすべての充満を受けていることになります。また、キリストによって全人類に派遣されて、信仰の証しをします。従って、すべての人が神の民の普遍的一致に招かれており、種々の仕方でこの一致に属しており、或いは秩序づけられているのです。その他に、教会が使徒継承であるのは、使徒たちの上に建てられたからです。使徒たちはキリストご自身によって選ばれ、宣教に派遣された証人です。教会は聖霊に助けられて、使徒たちの司牧の任務を受け継ぐ人々の働きを通して、使徒の教えを守り、伝えます。キリストの再臨の時まで、使徒たちとともにおられることを約束なさったが、洗礼を受けたキリスト者も、普通の祭司職として、福音宣教の使命に与ることができます。

（三）カテキズムの学び（『コンペンディウム』カトリック・カテキズム要約の番号）

#166、172 信仰宣言において、「普遍の教会を信じる」という意味：

教会は、信仰と福音による救いの真理を全面的に、余すところなく告げ知らせ、世界にいるすべての民に派遣されます。主によるこの宣教への派遣は、神の永遠の愛の中にその源泉があります。そのために、ご自分の御子とご自分の霊をお遣わしになったのです。

最後の祈り：全能の神よ、主キリストの死と復活によって、救いの恵みをくださり、感謝します。普遍の教会において、いつもキリストとともに、福音宣教の使命に与り、永遠の命と国を目指し、日常生活の中で、神の愛と福音を証しすることができますように。